

2.4. 女性とスポーツの課題について検討する委員会等の有無

正式な内部委員会に限らず、女性とスポーツの課題について検討する委員会・研究会・プロジェクトなどは、28.8%（17団体）が設置している。一方、「ない」と答えた71.2%のうち、21.4%（9団体）が「設置を検討中」と回答している。しかし、全体としては過半数の団体が「設置する予定はない」としている。「2.5. 女性とスポーツについての課題」をみると、全く課題がない団体は5団体に過ぎないことから、これら過半数の団体は「設置する予定はない」としつつも、設置の必要がある団体も少なくないと推察できる。

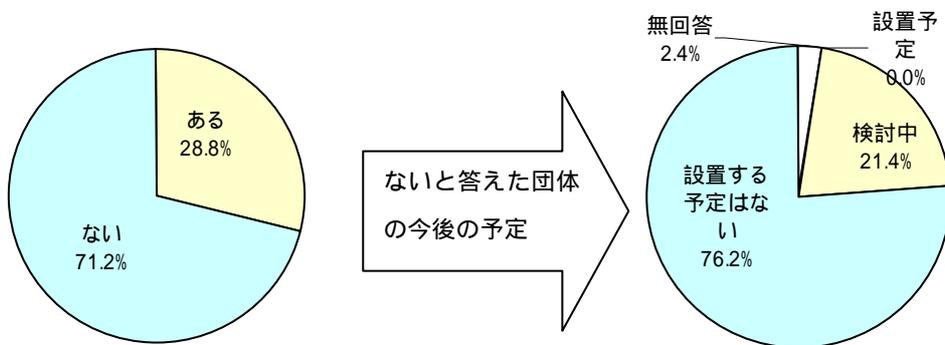


図4: 女性とスポーツの課題について検討する委員会等の有無 (N=59)

図5: 今後の設置予定(非実施団体) (N=42)

表3：「設置を検討中」と答えた団体の特記事項

1	男女共同参画については、理解しているつもりであり、理事数も増進している。今後女性理事を中心に検討したい。
2	まったく検討していなかったため、今後立ち上げるように検討していきたい。
3	ブライントン宣言を推進するためさまざまな試みを行っている。
4	連盟登録者数が減少傾向にある。女性を含む登録者数増加策を検討してまいりたい。
5	事業計画には、女性の競技振興を明記しているが、その具体策時に下記について検討している。(1)女性に対する競技の普及振興策、(2)女性の競技会への積極的参加と種目増加、(3)地方における競技会の女性部門の増加
6	女子担当指導員を設定しているが、主に技術の指導を行っている。女性問題について検討する機関が必要である。

表4：「設置する予定はない」と答えた団体の理由

1	当協会では、理事会・各委員会・各部会等で女性のメンバーを極力増加させるべく日常より努力しているため、あえて特別な組織を作る必要がないため。
2	理事会または専門委員会から要望がない。
3	創設時から男女共有のスポーツとして平等の立場で活動し、国際舞台での活躍は女性が上位にある。国内会員も女性が多く、それぞれの活動も活発であり現在問題はない。
4	現時点では競技者、審判員にわずかに女性がいますが、競技者としては数える程しか存在しない。故にまだ委員会、研究会、プロジェクトを設置するには程遠い気がする。
5	加盟団体が競技会開催などを通じて女子種目の普及発展を独自に展開しているため。
6	かつて女子委員会を設けて、女性委員を中心にした活動があったが、他のテーマ毎、一般委員会と検討内容が重複するため、各委員会の内に、女性委員参加の選択をした。
7	女性を中心とした団体で、主として女性により運営している。
8	さし迫った課題となっていない。
9	特に女性に限定したような事項はない。
10	皆さんの意識がまだそこまで至っていない。
11	もともとこの競技は男女の差がない。普及度は女性が競技に興味があるか無いかの差で、女性の競技人口を増やす事は課題ではある。
12	特に課題ではないが、今後検討することになる。
13	特に男女差別を必要としていない
14	男女ペアで競技を行うスポーツ団体の為か、女性の立場が古来より強く、女性の取組みについて特に意識していない。